

令和3年第4回新十津川町議会定例会一般質問通告表

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
1 (5)	小玉 博崇	<p><b>1 地域活性化に向けた地域おこし協力隊の活用について</b></p> <p>地域おこし協力隊は人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域活動を通じて新たな地域力の創造、強化を図り、町の活性化を目的とした取り組みである。</p> <p>本町では、これまで10名の地域おこし協力隊を採用し、観光や農業、社会教育など様々な面で活躍していただいている。</p> <p>また、地域おこし協力隊は、その地域への定住も目的の一つとしており、これまで4名の協力隊が協力隊の任期終了後も町内に定住し、たこ焼き店、ドーナツ店などを起業しながら引き続き、町を盛り上げてくれている。</p> <p>総務省では、令和2年度約5,500人の協力隊員を令和6年度までに8,000人に増やすという目標を立て、地域おこし協力隊の強化を図り、地方の活性化を目指している。</p> <p>現在、活動中の協力隊員2名が今年度で活動終了となり、本町において協力隊が不在となることから、今後の地域おこし協力隊の活用の方角について伺う。</p>	町 長	
		<p><b>2 消防団拠点施設の改修等環境整備について</b></p> <p>本年、役場庁舎の建て替えに伴い、滝川消防署新十津川支署も新しくなり、本町救急防災拠点としての環境が整備された。しかし、消防団の拠点施設である詰所については、平成30年に第一分団詰所が新築整備されたが、その他4カ所の分団詰所は築40年を超える建物もあり、老朽化・劣化が見られる。</p> <p>消防団詰所は、消防防災用車両や資機材の収納場所のほか、災害時の参集場所、活動拠点となる。</p> <p>消防団が安心して消防団活動を行う上でも、計画的な改修及び更新が必要と考えられるが、今後の整備計画について伺う。</p>	町 長	

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
2 (4)	鈴木 康裕	<p><b>1 これからの本町の文化活動の育成・支援について</b></p> <p>約2年間にわたる新型コロナウイルス感染症の影響で、全世界的に経済・文化活動などが様々な制約を受け、諸活動が停滞した。</p> <p>国および町では、いち早く感染対策を施し、ワクチン接種を進め、拡大抑制の政策を図った。その後、まず初めに経済を再生させるための政策が中心に実行され、一部の業界ではかなりの効果がみられるところもある。</p> <p>それに比べ、教育・文化・スポーツなどへの支援は立ち遅れ、2年間制約のある中での団体の活動は停滞気味で維持が精一杯であると聞き及ぶ。</p> <p>具体的には、町民文化祭の展示・芸能発表の中止のほか、獅子神楽、踊り保存会や男性・女性コーラスなど練習は継続しているものの、発表の場がないとモチベーションが下がり、続けられなくなるのではないかと危惧される。</p> <p>また、本年になり、ゆめりあ部会の大正琴・書道部会も解散したと聞いている。</p> <p>そこで、まだコロナが完全に終息していないところではあるが、本町の文化活動をどのように維持し、または新しい文化を育成しようと思われるのか、教育長のお考えをお聞かせ願いたい。</p>	教育長	
3 (2)	村井 利行	<p><b>1 高齢ドライバーによる事故の減少対策について</b></p> <p>高齢ドライバーによるアクセルとブレーキの踏み間違いによる暴走事故が度々、テレビ・新聞等で報じられている。</p> <p>新十津川町では、65才以上の自動車運転免許保有者が1,478名おり、うち75才以上は568名で、75才以上の後期高齢者の数は、今後益々増えていくものと思われる。</p> <p>高齢者の事故を少しでも減らすためには、(免許の自主返納の啓発等も有るが) 後付けの</p>	町長	

順位 (議席番号)	質問者	質 問 事 項	答弁者	摘要
		ペダル踏み間違い急発進抑制装置を装着するための費用補助により、高齢者の事故を少しでも減少させる方策を取っては如何か。町としての考えを問う。		